

新宮山彦ぐるーぶ第1936回

熊野修験30周年記念「熊野修験・熊野からロマネスク」

映画上映会鑑賞

◇実施日：平成29年06月18日(日) 13:30～17:30

◇会場：ジストシネマ南紀4

◇参加者：山上皓一郎・昌子、川島 功、児嶋道夫、松本吉殖、生熊敏男・千満子、大江加予子、畑林秀味、畑林清子、中川治平・定子、松本 良・邦子、野間 清、加子坂 昌彦、真砂民雄、奥村順夫、竹中卓治、高階美根子、舟瀬 薔。 21名。

熊野修験30周年記念として、田中千世子監督作品の「熊野修験」87分、熊野からシリーズ2作目は折口信夫の「死者の書」に導かれるように三輪・二上山を舞台に神話の世界へ「熊野からロマネスク」83分の上映会への招待がありました。

熊野修験(青岸渡寺副住職・高木亮英師)との係わりが深く、昭和63年9月に第1回熊野修験・奥駈行に参加された別府の山口念誦師から「道が良くなつたが玉置神社から持経の宿までは、遠すぎて新客は連れてこられない」と指摘された事が、行仙宿小屋建設のきっかけとなり、熊野修験から建設募金200万を寄付頂いた。又、昨年5月の熊野修験・春峰奥駈行に参加された、文化財保存技術習得者から行者堂の「役行者尊像」の傷みが激しく見かねるとの指摘があり、損傷を認識していたが「役行者尊像」の修復を決め、「役行者尊像のお性根抜き」は熊野修験にお願ひして快く執り行って頂きました。尊像内に胎内文書が見つかり、本年5月に尊像寄進の聖護院門跡・宮城泰年ご門主様外5名が出仕して「修復・役行者尊像」の開眼供養法要が執り行われました。

南奥駈道は、千日刈峰行の労苦によって歩けるようになりましたが、玉岡前代表の「歩いて貰わなければ藪に戻る」を積極的に

熊野修験は、在家の誰もが大峯順峰奥駈道を体験して欲しいと、春峰3回(那智山・青岸渡寺)本宮大社。本宮大社(玉置神社)玉置神社(前鬼山小仲坊)、秋峰1回(前鬼)釈迦ヶ岳(山上ヶ岳)金峯山寺・蔵王堂)が実施されて来ている。玉置神社から以北は、宿泊施設の関係から40名以下に絞られるが、それ以外は参加者に制限が無く、多数の参加者があります。大峯奥駈修業の体験入門として貢献の功績は、大いに評価いたします。

当ぐるーぶは、近年は玉置神社(前鬼山小仲坊)の奥駈行の際は、湯茶等接待の支援が絶えることなく、係わりが続いている。

田中千世子監督は、昨年11月の社会貢献者表彰式典の祝賀会の席上へ、御祝の花束贈呈に馳せ参じて頂きました。

今回の上映会は、返礼を兼ねて会友にご案内し、会行事としました。

当日、約60名(座席数81名)の聴衆が集い、14時から高木亮英師のご挨拶後「熊野修験」が上映され、休憩後に田中千世子監督と主演海部剛史男優のご挨拶後、熊野からシリーズ2作目「熊野からロマネスク」の上映を鑑賞しました。尚、3作目の主な舞台は、新宮市で撮影を終え公開に向け編集中心のこと。

上映後、高木亮英師・山上皓一郎さんの計らいで18時30分から新宮市「かつ田」で慰労・懇親会が開かれ、田中千世子監督、海部剛史男優と川島の5名が参席した。

尚、海部男優は、先決のお燈まつりの会友との懇親会へ参席のため、乾杯後程なく中座された。

その後、沖崎吉信氏と山上さんの奥様を電話で招集し、今後のご支援とご厚情の懇親を深め、20時40分頃に慰労・懇親会を有意義に終えた。

尚、監督さんには、花束贈呈の返礼に、当ぐるーぶよりお土産をお渡しした。

(記 川島)